

創立五十周年記念館「角間の里」は、里山活動を支援する大学と地域の交流拠点。白山麓の旧白峰村の豪農民家を移築しました。



e. 里山をもつ金沢大学ならではのアクション！ 地域・社会貢献活動

キャンパス周辺をきれいに！
【通学路クリーン作戦】 *Join!*

年3回程、ボランティアを募り、角間キャンパス周辺（ジャスコ社の里店から大学中央バス停まで）のゴミを収集しています。ゴミには壊れたビニール傘が最も多く、次いで空き缶、ペットボトルなど。マナーを考える機会になっています。



金沢市環境局リサイクル推進課の協力で、ゴミ収集車が来てくれます。

市民ボランティアが活躍中
【里山保全／角間の里山メイト】 *Join!*

角間キャンパスは里山をもつ、全国でもめずらしいキャンパス。そんな中、荒廃が進む里山を豊かな里山として維持するため整備・保全を行っているのが、里山自然学校を支援する「角間の里山メイト」です。拡大するモウソウ竹の竹藪をタケノコ林化する取り組みや、伐採竹での竹炭づくり、50年前の農業をテーマにした環境配慮型農業などを展開しています。



通路の清掃をする里山メイト。遊歩道整備も行っている。

f. キャンパスライフでリサイクル&リユース！ サプライチェーン活動

お得お手軽なリサイクル
【金沢大学生協の環境活動】 *Join!*

お弁当「リリパック」の容器をレジに持っていくと10円が、自販機飲料の紙カップをデポジット回収機に返却すると10円が返金されます！現在、回収率アップをめざしています。



「リリパック」は食べた後にフィルムをはがすだけ。

紙カップ回収機と「マイカップ」でも利用できる自販機。

リユース市はもはや金沢大学の名物！
【学生活動】

卒業生から不要になった家具を回収し、格安で新生入生に提供する「学生リユース市」。毎年3月の開催日には多くの新生入生と家族で賑わいます。実行委員会は2009年から環境系公認サークル「セカンド・ユース」として活動。環境保護と学生支援に取り組んでいます。



家具や家電製品などを品定めする来場者。

金沢大学環境方針

〔基本理念〕

金沢大学は、総合大学のもつ多様性を個性的に発揮することで、21世紀の時代を担う有為な人材の育成と知の創成に努めることとしている。地域における知の拠点である本学が、このような目的をもって教育・研究・診療・社会貢献等の活動を推進するために、将来の世代と地球に対する責任を自覚し、人間と自然との調和・共生を柱とした環境方針を掲げるものとする。

〔基本方針〕

- 1 金沢大学は、本学が実施するあらゆる活動において、環境問題を意識し、環境保全に貢献する人材の育成と研究の推進に努める。
- 2 金沢大学は、本学が実施するあらゆる活動において、環境に関する法規・規制・協定等を順守する。
- 3 金沢大学は、本学の活動が環境に及ぼす影響を調査・分析し、化学物質の安全管理、廃棄物の適正処理、資源・エネルギーの使用量削減や再利用・再資源化等に積極的に取り組むことにより、環境負荷の低減に努める。
- 4 金沢大学は、環境に関わる知的成果を含むあらゆる情報を社会に還元・公開し、環境問題に対する啓発と普及に努める。
- 5 金沢大学は、以上の環境方針を実現するための総合的なマネジメントシステムを構築し、継続的に目的・目標を定め、全ての大学構成員が協力して、その達成に努める。

金沢大学長 **中村信一**

〔環境マネジメントシステム〕

全学がひとつとなって委員会やチームを組織。PDCAサイクルによる継続的改善と実行力アップに努めています。



大切な地球と暮らしを守るため、
キャンパス、地域、世界をフィールドに、
さまざまな活動を展開しています。
学生と教職員がともに取り組む、
金沢大学の熱いチャレンジを紹介します。

金沢大学 エコアクション 2009

金沢大学環境報告書2009ダイジェスト



金沢大学エコアクション2009
金沢大学環境報告書2009ダイジェスト
2009年9月発行

報告対象期間：2008年度(2008年4月～2009年3月)
発行：金沢大学
お問合せ先：金沢大学 施設管理部 安全環境課
〒920-1192 金沢市角間町
TEL.076-264-5145 FAX.076-234-4033
e-mail kankyo@adm.kanazawa-u.ac.jp

「金沢大学環境報告書2009」の本編は金沢大学ホームページでも公開しています。
http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_sisetu/kannkyouka/kankyo/2009.pdf

「総合大学」の強みを活かして、環境に関する課題を解決していきます。



Joint! 学外の方も参加

a. 環境分野のメニューがますます充実！ 環境教育と研究



さらなる展開をめざして
【環境教育の充実】

2008年度の「大学・社会生活論」では金沢市環境局の職員を講師として迎え、現場の生の声を聞かせていただきました。

国内外をフィールドに展開
【環境およびエネルギー研究】

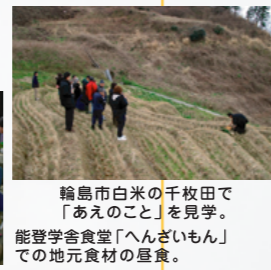
医療系・理工系だけでなく、人文社会系の分野でも、環境やエネルギーに関する研究が進められています。

新たなネットワークづくり 【環境教育・ESDの支援】 Joint!

ESDはユネスコが中心となって国際的に進められている「地球環境の持続可能な開発のための教育」です。金沢大学では、その理解と教育現場への導入を促進するため、北陸地域の教員や、自治体・NGOの方々などを対象に講座やシンポジウムを開催しました。

地域の環境を現地で学ぶ 【「能登エクスカッション」を実施】

生きた地域づくりを知ることを目的に地域創造学類が実施。能登半島の美しい自然や伝統文化、暮らしや素朴で温かな人情、観光資源などを学ぶ貴重な体験となりました。



輪島市白米の千枚田で「あえのこと」を見学。能登学舎食堂「へんざいもん」での地元食材の昼食。

自治体や企業の事例を学ぶ 【環境保全の取り組みを見学】

2009年度から開講される共通教育科目「環境の現場で学ぶ」のプレ企画として、環境保全センターと連携・協力して実施。戸室リサイクルプラザ、戸室新保理立場、不法投棄の現場、ミナミ金属株式会社を見学しました。



容器包装プラ処理設備の運転制御室を見学。



集められた流水を眼下に埋立場の説明を聞く参加者。

角間キャンパスの自然科学本館入口に設置されている風力発電装置。



キャンパス内には太陽光パネルを複数設置。



自然科学研究棟の屋上には太陽光発電システムを設置。案内パネルには日射量や発電電量が表示されます。

b. 活動・講演・情報紙をとおして深める 環境コミュニケーション

植樹活動は初夏の風物詩 【環境月間の実施】

毎年6月は「金沢大学環境月間」。大学全体で美化や植樹を実施しました。学内では年間行事として定着しつつあります。

68作品から8作品が受賞 【環境標語の募集】

環境調和への取り組みを推進するため、学生と教職員から、オリジナリティあふれる環境標語を募集。2月に最優秀賞・優秀賞・審査員賞の表彰式が行われました。



表彰式。最優秀賞作品は「金沢大学エコ自慢!ココロやさしくエコざかり!」。

環境研究のエキスパートが語る! 【「金沢大学のエコアクション」講演会開催】 Joint!

金沢大学で環境に関する研究を行う教員の発表や、地球環境から海外との意外なつながりなど、さまざまな取り組みや対策を紹介。当事業のパネル展示も実施しました。



講演会では、鈴木克徳特任教授、古内正美教授、市原あかね教授、佐川哲也教授が研究内容を発表。

コンパクトサイズでわかりやすく 【環境報告書についてのアンケートを実施】 Joint!

学内や地域に向けてエコアクションをPRするため、「金沢大学環境報告書」ダイジェスト版を編集発行。学内アンケートでは回答者の8割以上が「内容がわかりやすく読みやすい」と答えています。また、回答者の9割近くが環境マネジメントシステムを高く評価しています。[裏面参照]

c. 女性研究者の支援と増加をめざして 社会パフォーマンス

里山活動を利用した学童保育支援 【里山 KIDS ROOM】 Joint!

女性研究者の子どもを預かることで、家事や育児を軽減し、研究や教育への時間を確保します。金沢大学では里山活動と連携し、豊かな自然環境の中で子どもの科学の心を育てるとともに、環境への意識を高め、また、研究者という職業への興味を引き出すきっかけづくりを行っています。



「雪だるま祭in角間の里2009」に合わせて開設されました。

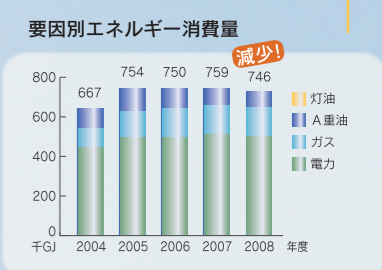
バラエティーにとんだ実験が話題 【高校への出前実験】 Joint!

女子高校生に環境や科学技術への興味を高めてもらうことにより、理工系への進学を選択するきっかけになることを目的に、積極的に高校へ出向いて、出前実験を実施しています。

d. 環境負荷の少ないエコキャンパスへ! 環境への配慮

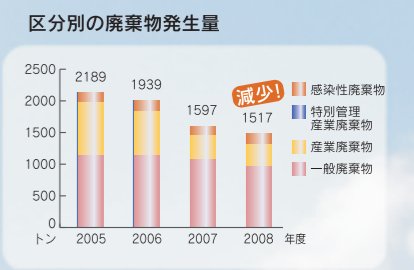
金沢弁を盛り込んだ取り組みも登場 【エネルギー消費の削減】

2008年度からの夏季一斉休業、冷暖房期間や稼働時間の短縮、室内空調設定温度の周知・徹底などで着実に削減。また、CO2削減と健康増進を目的に月1回の「はよう帰りました日」(定時帰宅日)を実施しました。「節約しまいかプロジェクト」で、啓発・巡視などの活動も行っています。



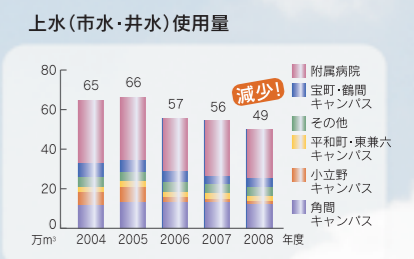
廃棄物管理の細則を施行予定 【廃棄物の排出制御と再資源化】

教育研究活動に伴って発生する廃棄物(ゴミ)は分別回収を徹底。古紙、ペットボトルはリサイクル専門業者へ委託し、古紙は97%、ペットボトルは100%がリサイクルされています。廃棄物に関する全学的取り決めとして廃棄物管理の細則を検討し、2009年度中に施行する予定です。



前年比12.5%の節水効果 【水資源の節約】

2008年度の年間水使用量は49万m³で、2007年度に比べて12.5%減少。設備改修や日頃の節水等の効果だと考えられます。



環境調査チームが徹底調査 【化学物質の適正管理】

学内で化学物質管理状況を調査した結果、ほぼ適正に管理されていることを確認。特定化学物質の排出・移動量については、PRTR法に従って報告しました。河川などの公共水域や土壌への排出及び埋め立て処分はありませんでした。

ISO14001を取得 【環境に優しいものづくり】

技術支援センターは環境マネジメントシステムの構築を行い、2008年度に国際規格であるISO14001の認証を取得しました。廃棄物減量化、エネルギー節約、環境教育推進、グリーン購入推進の4つを重点テーマに掲げています。



ISO14001の認定証。

